

●三位一体後第九主日

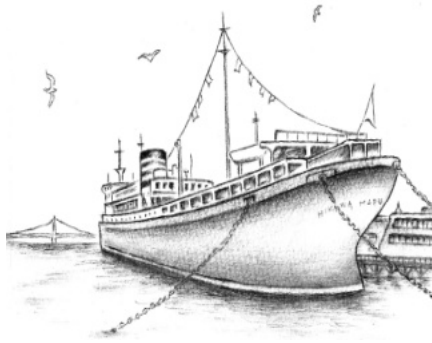
泉のほとり

今月の詩編「第百十一編」

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

主の賛美は永遠に続く。



狭い門から入りなさい

この時代、多数の意見が正義とされることが少なくありませんが、「真理」は人の数で決まるものではありません。少数の考えに真理があるとも限らないのですが、多数の人が選ぶ道に真理がなかったことは、聖書が証しするイスラエルの歴史に顕著に見られるものです。

主イエスは「狭い門から入りなさい」と教えてくださいました。命となる真理の道は門が狭く道も細いのですが、この「細い」とは圧迫され苦しみを伴うという意味です。だから、誰も選ばない、敬遠し、避けたい道、だから通る人が少ないのです。

この大きな原因の一つとして、主は「偽預言者を警戒しなさい」と語られました。彼らは民を、今見てすぐ喜ぶ、人が歓迎する「広い門、広々とした道」へと案内する偽りを教えていたからです。外側は羊の皮をまとっているため見分けが付きませんが、主は「その実で彼らを見分ける」と教えられました。それにしても、羊の衣を着ているので、人が警戒しないような話、人を安心させる羊の声のように聞こえる教えにこそ警戒しなければなりません。

マタイの福音書の章から続く教えは、民を狭い門へと導き、通らせる教えでした。「兄弟に腹を立てる者は裁きを受ける」と言われる主のことばに向き合えば、人の内側にある憎悪や恨みと対峙することになります。安息日に特定の行いを「するか、しないか」で広い門にするのではなく、安息日に内側にある怒りや貪りをやめる道に進むようにと告げられることが、狭い門への呼びかけです。

主は「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。天の父の御心を行う者だけが入る」と教えました。「父の御心を行う」とことは狭い門ですが、「そうでなくともよい」と教えることがあれば、それは必然的に広い門となります。かの日には、「御名によって奇跡を行った」と言う大勢の者に、主は「不法を働く者ども」と宣告されます。旧約聖書の偽預言者たちが自らを偽者だと思わなかったように、教会の中でも同じことが起きるとい警告です。彼らの働きは人を広い門へ導くものであったに違いありません。

私たちに与えられる主の言葉は、「自分を捨て、自分の十字架を背負って従いなさい」と細い道へと導いています。「人を裁くな」「敵を愛せ」「仕える者になれ」という教えを実行しようとする、自分の義やプライド、赦せない心を捨てなければなりません。しかしそのようになることが確実に幸いです。しかし簡単に得られるものではないことを私たちは知っています。だからこそ、フリー・パスがあるというような言葉を聞くか、自分を捨てさせる主のことばを聞くか、避けては通れない道が教えられているのです。

最後に主はご自身のことばを聞いて行う者は「岩の上に家を建てた賢い人」、聞くだけで行わない者は「砂の上に家を建てた愚かな人」に似ていると語られました。聞くだけでよいとするのは「広い門」です。

私たちが聞いているのは文字による教えではなく、キリストの十字架の血と肉による教えではないでしょうか。十字架のことばは、赦された恵みがあまりにも大きいゆえに、赦すことを当然とする新しい良心が授けられ、聞くだけで終わることのできない神の力ではないでしょうか。それは削ぎ落とされなければならぬ自分自身と対峙し、捨てることを伴うのです。しかし、それが人に究極的には自由を与えるものです。

神は私たちの度合いに応じて導いてくださる天の父です。今すぐ御心を行う完全な者にならない現実を見て、広い門を選んではなりません。落胆することなく、主イエスの命のことばが一つ一つ確実に私の内側に土台が据えられるようにとの願いに生きたのです。数に惑わされず、私のために死んでくださった主、復活の主のことばをコンパスとして、動かされることなく真理の道を分別して進んでいきたく願います。

(マタイ五章一三―二九節黄允湜牧師)

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○ 礼拝の中で祝福式を行います。

祝福を受けるお二人

西川亮さんと瞳さんの長男 律さん

桑原知剛さんとあさひさんの長女 暁理さん

○ 四日(火)、五日(水)バイブルスクールを行います。ポスターをロビーと事務所前に張っています。時間と内容をご確認の上、どうぞご参加ください。

《ぶどうの会より》

ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十一篇】

(司・会)

ハレルヤ。

わたしは心を尽くして主に感謝をささげる

正しい人々の集い、会衆の中で。

主の御業は大きく

それを愛する人は皆、それを尋ね求める。

主の成し遂げられることは栄え輝き

恵みの御業は永遠に続く。

主は驚くべき御業を記念するよう定められた。

主は恵み深く憐れみに富み

主を畏れる人に糧を与え

契約をとしえに御心に留め

御業の力を御自分の民に示し

諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

御手の業はまことの裁き

主の命令はすべて真実

世々限りなく堅固に

まことをもって、まっすぐに行われる。

主は御自分の民に贖いを送り

契約をとしえのものと定められた。

御名は畏れ敬うべき聖なる御名。

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

(司・会)

主の賛美は永遠に続く。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「眠っているだけで」

聖書 マルコ5章35〜43節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「5000人の給食」

聖書 ヨハネ6章5〜15節

説教者 宮間 彰広 兄

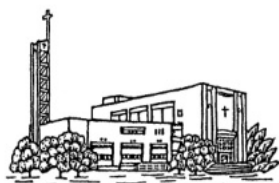
●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 87A番 313番

説教 「祈るときには」

聖書 マタイ6章5〜8節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 74番 275番

説教 「ためらわないで行きなさい」

聖書 使徒10章9～23a節(新約 P.232)

司式 石川 一 兄

聖餐司式 黄 允湜 牧師

説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「羊はのどかに草を食み」

(カンタータ208番より) J.S.バハ

○讃美歌74番

1. 涯しも知られぬ あまつ海原を
わたるや朝日の うららに匂いて
み恵みあまねき 父なるみかみを
あらわす光ぞ 日々に新なる

2. 暮れゆくみ空に 月星ほのめき
盈ちかくる影に 変るきらめきに
ときわに変らぬ みかみの真理を
あらわす光ぞ 夜々に明かなる

3. 昼はものいわず よるは語らねど
声なきうたごえ 心にぞひびく
「われらの生命に まします御神の
律法はかしこく 稜威こよなし」と

アーメン

○讃美歌275番

1. つよき神の子 朽ちぬ愛よ
われらは君を 見るをえねど
見るにもまして いとさやかに
信仰によりて 君をあおぐ

2. 君こそきよき 神のすがた
うえなく高き 人の子なれ
我らが意志を さずかりしは
ふたたび君に かえすためぞ

3. 知識はうつり すたりゆけど
ただ信仰こそ とこしえなれ
ひとの知識は 君のひかり
ほのかに映す ひらめきのみ

4. 知識の増すに いやまさりて
うやまう心 深まりゆき
こころと魂と ひとつに合う
たえなる調べ かなでよかし

アーメン

聖餐曲「見よ、光の玉座の聖徒たちを」 D.ウット

後奏曲「アレグレット」(ソナタ5番より) C.P.H.バハ